



令和6年度（2024年度）

第 16 回 定 例 庁 議

令和6年12月6日(金)午前8時30分～
第一応接室（担当：総合戦略室 内線1111）

1 報告事項

- (1) ウェルビーイング実践校 TOCO-TON（トコトン）に係る取組みについて

……………（教育委員会）

庁 議 日 程 に つ い て

第17回定例庁議	12月24日(火)	8時30分～
第18回定例庁議	1月 8日(水)	8時30分～

庁議資料
6. 12. 6
教育委員会

(報告事項)

ウェルビーイング実践校TOCO-TON（トコトン）に係る取組みについて

1 趣旨

長野県教育委員会（以下「県教育委員会」という。）が、個別最適な学びへの転換プロジェクトの取組みの一環として進めてきた「ウェルビーイング実践校 TOCO-TON（トコトン）」（以下「実践校」という。）に、安曇小・中学校、大野川小・中学校及び奈川小・中学校（以下「3校」という。）のグループが指定されましたので、その概要について報告するものです。

2 経過

6. 8. 7 松本市教育委員会と教職員による第1回山間地校の新たな学びプロジェクト会議において、3校合同の新たな学びの在り方を検討
10. 3 県教育委員会が実践校の募集を開始
- 10 実践校への募集について市内全校に周知
11. 7 県教育委員会に提案書を提出（本市では3校のグループを含め4グループが提案書を提出）
12. 5 県教育委員会から選考結果通知を受理。3校のグループが実践校として指定される。

3 県教育委員会の募集概要

(1) 実践校が目指す学校の姿

すべての子どもが「好き」や「楽しい」、「なぜ」ととことん追求するために、自ら学び方等を選択でき、自己実現できる（ウェルビーイング）学校

(2) 実践校として取り組むこと

ア 「学校の仕組み変革」(※)に取り組む。

※「学校の仕組み変革」の例

・趣旨 学校内にある様々な慣習や従来の方針を、今の時代に合わせて柔軟に見通す取組み

・取組例 子どもたち自身が学校のルールを作る・決める等

イ 学校の準備から運営手段に至るまで、子ども、保護者、地域との意見交換等を通して、一緒に学校づくりに取り組む。

ウ 取組みの経過をオープンにするとともに、学校公開を行う。

(3) 県教育委員会の支援

ア 支援内容

(ア) 県教育委員会に「学校改革支援センター（仮称）」を設置するとともに、実践校

又は所在する市町村（学校組合）教育委員会に本業務に従事する教員を加配し、伴走支援を行う。

（イ） 実践校の教員向け研修の企画・実施及び県外視察の旅費を支出する。

イ 支援期間

おおむね３年を予定（令和７年度の準備期間及び令和８～９年度の運営期間）

ただし、「学校改革支援センター（仮称）」による伴走支援は、上記期間後も継続して行う見込み

４ ３校のグループの提案内容（概要）

別紙のとおり

５ 今後の進め方

（１） 次期開催の経済文教委員協議会に報告します。

（２） 令和８年度の運営開始に向け、引き続き県教育委員会と調整します。

担当	教育政策課
	教育研修センター
センター長	大久保 和彦
	（内線 3260）

アルプスすべてが学びのステージ！
「やりたい！」を「ともに」実現するジョイフル・ラーニング・フィールド
(仮称)まつもとアルプス学園(学校群)

松本市立安曇小学校・中学校 大野川小学校・中学校 奈川小学校・中学校
松本市教育委員会

1 どんな学校を創りたいか

- (1) 子どもの「やりたい！」をベースに、アルプス・エリアの教育資源（ひと・もの・こと）を存分に活かした探究的な学びがダイナミックに展開する学校
- (2) 6小中学校の児童生徒、教職員が混ざり合いながら多様な学び方で学ぶ学校
- (3) 子ども、地域保護者、教職員がともに創る「わたしたちのアルプス学園」

2 何にどのように取り組むか(取組例)

(1) 【やりたい！】に向けて

ア 「アルプス科」の創設

地域の中から「やりたい」課題を見つけ、地域の人々の力を活用しながら心行くまで探究する学びの時間の創設

イ 「子どもが創る『学校行事』」

すべての学校行事を「子どもが作る活動」としてプロジェクト化

ウ 「自己選択・決定」できる授業づくり

子どもが内容・方法を自己選択・決定し、自らの意思で学びに向かう授業の日常実践

(2) 【ともに】に向けて

ア 「3キャンパス共通カリキュラム」の策定と実践

3校共通のカリキュラムを策定。オンラインとリアルの授業・活動を通して、基本的に年間を通してともに学ぶ。

イ 「縦割りホームグループ (HG)」と「横割りラーニンググループ (LG)」による学び

HG:「学級」に変わり、異年齢による「ホームグループ」を編成

低学年 HG: 小1～小4 高学年 HG: 小5～中3

特別活動、探究、道徳、音楽、体育、図工、美術、家庭、技術等の授業をこのグループで学ぶ。

LG:「学年」を基本とした「ラーニンググループ」を編成

国語・社会・算数・数学・理科・英語等の授業、一部の特別活動等をこのグループで学ぶ。

ウ 「協働の学びの日」の実施

年間を通して40分(小)45分(中)授業を実施し、創出した時間を「移動時間」に充て、HG・LGが対面で学ぶ時間を確保する。

エ 「アルプス地域教育支援プラットフォーム」(仮称)の設立

まつもとアルプス学園(仮称)の教育活動を支える地域基盤として3校のスクールコミュニティを結合。学校づくりの理念を共有し、学校行事や各授業の企画支援を学校とともに行う。

オ 「多様性を包み込む」教育環境づくり

HG、LG への複数教員の対応、ICT の活用、細やかな支援体制等を通して全ての子どもがその子らしく、ともに学ぶ、学びの場を実現する。

カ 「教職員の協働の時間」の創出

通常の日を、40 分（小）45 分（中）授業の実施により 15 時下校とし、教職員が授業準備・打合せ、支援会議、相談等、協働的に業務に当たる時間を確保する。

(3) 構想を实践する上での課題（※は、県の支援に期待すること）

ア 協働活動を行うための移動時間・方法の確保

イ 学校づくりを進めるための教職員の組織づくり

（ア）職員の学び観の更新・学校づくり理念の共有

※研修への支援、取組みの方向の価値付けとフィードバック

（イ）熱意ある教職員の配置

※教員配置事業の積極活用への支援、教員配置の協力

ウ 地域の学校づくりへの理解と支援体制づくり

エ オンライン授業の日常実施のための ICT 機器の拡充